

ルダラウカ、戦争ガ二、三十年續クカラヤルノデハナカラウカ  
又英獨妥協ト云フコトモ相當警戒ヲ要スル事ト思フ。獨「ソ」  
開戦スル場合ニモ獨ニハ大義明分ヲ必要トスルカラ先ツ條件ヲ  
出シ其後開戦スルト思フ

外相右所見ニ關聯シ獨「ソ」開戦ニ對スル統帥部ノ態度ヲ質シタ  
ルモ陸海軍共本件ハ慎重ナルヲ要ス急タ必要ナシト應洲シ態度ノ  
表明ハ後日ニ委ス

六月十一日第二十九回連絡懇談會

一、日蘭交渉ニ關スル件

一、外務省通商局長特ニ出席ス

二、先ツ通商局長ヨリ日蘭交渉ノ經過ニ就テ説明アリ

三、外相本朝芳澤ヨリ多少話ノ餘地アル電報到着シタルモ其内容大シ  
タルコトナシト述ヘ審議ノ結果左ノ如ク措置スルコトニ決ス

四、芳澤代表ノ引揚ヲ命ス

五、日蘭交渉ニ關スルモ大ナル效果ナキヲ以テ調印ヲセス

六、交渉決裂ノ形ヲ取ラス種ヤカニ不調ニ終リタルコトトシ話ヲ後

ニツケル餘地ヲ殘スモノトス

(二) 蘭印ヨリ希望スルナラハ總領事ヲシテ之ニ當ラシム

南印ヨリ多少ユトリアルト云フ事ニ對シテハ芳澤ヲシテ若干ノ  
交渉ヲナサシムルモ之ニハ大ナル效果ヲ期待セス  
ハ芳澤歸朝ノ時ハ隨員等モ一應全部ヲ歸朝セシム要スレハ更メテ  
所要ノモノヲ派遣ス  
南洋局長ヨリ「ゴム」ヲ吳レナケレバドウスルカノ提議アリタル  
モ情勢ノ推移ニ委スル他ナシト云フコトニ結着ス調印スルヤ否ヤ  
ニ關シテハ種々論議アリ  
外相ハ最初調印スルヲ可トストモ考ヘアリシカ如キモ軍部側ハ今  
日迄ノ南印ノヤリ方ハ不都合ニシテ又應諾量モ不足故調印スレハ  
國民ハ不承知ナルヘク佛印ヤ泰等ニモ帝國ノ弱クナツタ感想ヲ與  
ヘ好結果トナラス調印セサルヲ可トスト主張シ調印セサルコトト

決ス

而シ一方國論ヲアマリ沸騰セシムルハ不適當ナルヲ以テ此點ハ研  
究スルコトトス

四 尙對佛印施策等ニ關聯シ若干ノ論議アリ要旨左ノ如シ

外 相 今日迄ノ經過ニ依レバ南印ハ帝國ヲ侮辱シテ居ル從ツテ

此ノ交渉ヲ打切ルニ方ツテモ少シ強イ態度ヲ必要ト思フ

之ニ關シテハ國力ト云フコトモアリ特ニ統帥部ノ態度ヲ

承リ度

參謀總長 南方政策ニ對シ陸海軍統帥部ノ考ヘテ居ルコトハ既ニ前

ニ示シタ通りテアツテ南印一國デアレバ問題ニナラサル

モ背後ニ英米アルカ故ニ南印ニ強硬ナル態度ヲ取レハ事

懸ヲ惹起スヘシ

最近獨「ソ」並米國ノ問題モアリ直ニ武力行使スル等ノ  
コトハ考ヘナケレバナラス

當分ハ現在取得シ得ル量ニテ一應打切り而モ全然打切ル  
コトトハセズ後ニ話ヲ續ケル様ニスルガ宜シイ

統帥部トシテハ蘭印ノミナラス從來屢々云フガ如ク對佛  
印施策等ヲ促進シ又佛印ニ兵力ヲ進駐セシムル如ク外務

大臣ニ於テ手ヲ打ツコトヲ希望ス

外相

ソウスレバ英米ヲ刺戟シ英軍カ泰國ニ入ツテ來ルコトハ  
眼ノ前ニ見エテ居ル

參謀總長

狀況判斷ハソウハ思ハス

外相

佛印ニ交渉セヨト云フガ獨ラシテ「ヴシー」ニ交渉セシ  
ムルヲ可ト考フ

參謀總長

ソウ云フヤリ方ハ外相ノ御考ヘ通りテ宜シカルヘシ

外相

兵力ヲ入レルニハ佛印バカリデナク泰ニモ入レル必要ア  
リ而シテ佛印泰ニ兵力ヲ入レル事ハ「ビルマ」馬來ニ影  
響ヲ及ホシ英國ハ必ス手ヲ出スト思フ

參謀總長

コチラガ強ケレバ先方ハ手ヲツケスト思フ

外相

外交上カラ行ケバ尻ヲマタリ度イ所ダガ統帥部ガ不適當  
ト云フカラヤラス

軍令部總長

佛印、泰ニ兵力行使ノ爲ニ基地ヲ造ルコトハ必要ナリ  
之ヲ妨害スルモノハ斷乎トシテ打ツテ宜シイ　タタク必

要アル場合ニハタタケ

以上ノ如ク外相ハ佛印、泰ニ對シ施策ヲ進メルト云フコトニハ言及セズ兵力ヲ用フルコトハ外相自身モ適當ナラスト云フ様ナ話モ出テ本日ハ蘭印ノミノ話トナリ明十二日十一時ヨリ對佛印施策ニ就テ更ニ論議スルコトトナレリ

六月十二日第三十四連絡懇談會

南方施策促進ニ關スル件

一、軍令部總長「南方施策促進ニ關スル件」ヲ説明ス

此ノ際軍令部總長ハ佛印カ廳セサル場合並英米爾カ妨害シタル場合武力ヲ行使スルコトニ關シ強ク強調セリ

二、右ニ就キ論議ス、概要左ノ如シ

外相 通牒ノ實業ハ新シク出テ來タカラ今返事ハ出來ヌ。而シ

水野總長ノ説明ヲ聞イタ所ノ恩付ノコトヲ云ヘハ、此ノ進駐ハ軍事占領トナル、此ノ占領カ佛印ニ如何ナル影響ヲ與ヘルカ、既ニ佛印ノ保全ニ就テハ此ノ前ノ紛争調停ノ時日本側ニ於テ表明シアル所ナリ。